



項目をクリックすることで当該記事に進みます

SIC2025年度定時社員総会(2026. 3. 6)開催報告

目次

I センター情報

- ① 2026年度SIC役員
- ② 2025年度SIC活動報告
- ③ 2026年度SIC活動計画
- ④ SIC第3期(2026)システム科学概論連続講座「システム科学のための情報と数理」全6回(2026年6月12日～11月20日)開催案内

II 会員活動

- ① 2026年度第2回SICフォーラム開催案内(会員限定)
【日時】2026年4月8日(水) 15:00～16:15
【開催形式】MS-Teams によるオンライン
【タイトル】「アジャイル開発とスクラム～ビジネス事例と知識創造理論の接点～」
【講師】平鍋健児氏 永和システムマネジメント代表取締役社長
- ② 2026年度第3回実行委員会(2026. 3. 24)開催報告

III 会員企業一覧

SIC2025年度定時社員総会(2026. 3. 6)開催報告

(一般社団法人システムイノベーションセンター2025年度定時社員総会「議事録」より)

開催日時:2026年3月6日(金) 11:00~12:00

開催場所:会場出席(ダイワロイネットホテル西新宿 会議室 東京都新宿区西新宿6-12-39)
および、オンライン出席を併用

出席者:正会員会場出席3名(代理出席を含む)、オンライン出席8名(代理出席を含む)、
事前に議決権行使書提出2名、議長への委任4名 合計17名の出席(欠席は無し)
その他、準会員の陪席1名、理事4名、監事2名、事務局2名の出席

配布資料:2025年度SIC定時社員総会「議案書」

1. 開会

正会員17名全員の出席により総会の成立が確認された。

- (ア)総会の開催案内と進行:事務局より、総会の開催を宣言し、事前に配布した議案書の若干の修正点について説明した後、定款に基づき浦川伸一センター長に議事進行を委ねた。
- (イ)議事録署名者の指名: 議事録署名者として、議長のほか、松本隆明理事とオンライン出席の船橋誠壽監事が指名され、両名が承諾した。
- (ウ)浦川センター長より、総会の開催にあたっての挨拶があった。

2. 議案審議

【議題1】 2026年度SIC役員体制の件【第1号議案】

浦川センター長より、議案書に記載された2026年度の理事・監事体制について、役員任期は2年であること、理事1名が2025年末をもって退任したため12名の理事と2名の監事での体制となることが説明され、新体制が確認された。

【議題2】 2025年度事業報告、および、同決算書の承認の件【第2号議案】

松本業務執行理事より2025年度の活動実績と決算内容が詳細に報告され、監査報告を経て全会一致で承認された。

- 事業報告の詳細説明: 第三次中期計画の策定やシステム人交流会、SICシンポジウム2025、経営者研修講座、分科会活動、ニュースレター発行など多岐にわたる活動実績が報告された。
- 決算内容の説明: 会費収入の減少等による収入減、特別調査費等の未執行による支出減などを含む決算概要が説明された。なお、当期内での赤字幅は当初予算より縮小した。
- 監査報告と承認手続き: 新谷監事より、監査結果の報告があり、組織運営の健全性と決算内容の正確性が確認された。その後、出席者全員の賛成で事業報告・決算が承認された。

【議題3】 2026年度 事業計画及び予算の件

松本業務執行理事より2026年度の事業計画と予算案の説明があり、分科会の新設やAI分野への注力、収支計画などの議論ののち、事業計画と予算案が承認された。

- 事業計画の概要説明: 第三次中期計画2年目として、戦略提言の社会実装や外部団体との連携、分科会の新設、人材育成講座の再開、各種イベント開催などが計画されている。
- 分科会活動とAI分野の強化: AIをテーマとした分科会の立ち上げを進め、会員企業の共通課題をアカデミアと連携して議論・解決する方針が示された。
- 予算案の詳細説明: 新規会員獲得による収入増や、特別調査費の計上、事務所賃料削減、繰越金の活用などを含む収支計画が説明された。
- 質疑・コメントと承認: 生成AI活用やサーキュラーエコノミーに関してOEPCとの連携強化などの意見が出され、議論の後、事業計画・予算案が承認された。

【議題4】【協議事項】 SIC戦略提言発出を含む対外活動活性化の件

松本実行委員長より、SIC戦略提言活動の経緯とSICシンポジウム2025の成果、卓越システムの重要性、今後の対外連携強化について説明があり、出席者による協議ののち、対外活動の活性化をはかることが確認された。

- 戦略提言活動の経緯と内容: 2023年度以降、6分野(ヘルスケア、エネルギー、ロジスティクス、金融、科学技術、防災レジリエンス)で戦略提言を策定し、SICシンポジウム2025で各主査による内容紹介と全体最適の重要性が強調された。
- 卓越システムの要件とメッセージ: 現場最適から全体最適への転換、理念の明確化、分野横断的な連携による卓越システムの構築が日本の競争力強化に不可欠であると提言された。
- 今後の対外活動方針: 友好団体や外部機関との共同プロジェクト推進、シンポジウムやフォーラムを通じた提言の社会実装・発信強化の計画が示された。

【議題外】 その他のSICの活動についての意見聴取

出席者から生成AI活用や人材育成分科会の活発化、OEPCサーキュラーエコノミー分科会との連携強化について意見が出され、今後の活動方針に反映された。

- 生成AI 活用の課題と提案: 生成AIの業務活用やAI駆動開発の現場導入が進まない課題を共有し、会員企業・アカデミア連携による実践的な議論・施策検討の必要性が指摘された。
- サーキュラーエコノミー分科会との連携: OEPCでの製造業を中心としたサーキュラーエコノミー分科会の具体的なユースケースをSIC活動と連動させ、現場課題の解決や相乗効果を目指す方針が示された。

3. 閉会

浦川センター長より、引き続きの協力の呼びかけがあり、総会を閉会した。

- 閉会挨拶と協力要請: 2025年度総会の終了を宣言し、SIC活動への継続的な支援と大企業・アカデミアの積極的参加を呼びかけた。

一般社団法人システムイノベーションセンター2025年度定時社員総会「議案書」は、SICホームページ内、情報公開のページにて公開

[SIC2025定時社員総会—議案書.pdf](#)

以上

I センター情報

① 2026年度SIC役員

下記、SIC役員(理事・監事)は、全員、2025年3月14日開催の2024年度定時社員総会で、2025年度よりの2年間の任期により選出されており、2026年度も引き続き職務を担う。

一般社団法人システムイノベーションセンター 2026年度役員(理事・監事)

選任区分	氏名	所属	役職等
代表理事・センター長	浦川 伸一	株式会社スカイページ / 株式会社スカイページネクスト	代表取締役
業務執行理事・実行委員長	松本 隆明	(元) 独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)	(元) 顧問
理事・学術協議会主査	藤田 政之	金沢工業大学 東京科学大学	教授 名誉教授
理事	青山 和浩	東京大学大学院	工学系研究科・人工物工学研究センター 教授
理事	遠藤 薫	学習院大学	名誉教授
理事	岡本 浩	東京電力パワーグリッド株式会社	取締役・副社長執行役員
理事	鹿子木 宏明	横河電機株式会社	執行役 デジタルソリューション統括本部デジタル戦略本部長
理事	木谷 昭博	マツダ株式会社	常務執行役員 兼 CIO 業務イノベーション担当
理事	久間 和生	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	理事長
理事	齊藤 裕	独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)	理事長 兼 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター長
理事	島田 太郎	株式会社東芝	代表取締役 社長執行役員 CEO
理事	服部 正太	株式会社構造計画研究所ホールディングス	取締役 代表執行役
監事	船橋 誠壽	特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合 (横幹連合)	(元) 理事
監事	新谷 勝利	早稲田大学	招聘研究員

② 2025年度SIC活動報告

(一般社団法人システムイノベーションセンター2025年度定時社員総会「議案書」より抜粋)

1. 活動の概況

2025年度は、SICは設立後7年目にあたり、3年ごとに制定しているSIC中期計画の第3次計画を制定した。

第3次中期計画では、システム化の目指すものを問い、「卓越システム」の構築の推進を通して人中心社会の豊かさを協創する「システム4.0」を提唱した。また、データ共有による「システム産業」の創出と活性化を促すことで、豊かな社会の協創に向かう活動の推進を目標に据えている。

この第3次中期計画に基づく本年度の活動の特記事項としては、主要なイベントとして、上記の人中心社会の豊かな社会を“つながり”によって協創していくことをテーマに、「第2回システム人交流会」、「SICシンポジウム2025」、「第3回SIC経営者研修講座」を、対面、および、一部オンライン併用にて開催したことにある。いずれも盛況で、好評を得ており、次年度からのSICの活動における、主要な指針を得ている。

第2回システム人交流会は、SICが主催する各種研修講座を受講した「システム人」が企業の枠を超えてモチベーションを共有するとともに、参加者同士の人的チャネルの構築も図る場として「豊かな社会を協創するシステムへ」を標題として開催され、SICの活動の中でのシステム人への期待、システム人にとってはそのポテンシャルをどう生かしていくかについて意見交換を行った。

SICシンポジウム2025では、3年間にわたりほとんどの会員企業からの参画を得て、6つの分野を対象とした戦略提言活動について、すべての分野の提言策定が出揃ったことを受け、このSIC戦略提言活動の成果の公表を行い、それに基づき今の日本にどのようなシステムを構築すべきか、日本のシステム構造をどのように作りあげていくべきかを議論した。SIC戦略提言については、全体をまとめた冊子を7月に発行し、また、シンポジウムでの本提言活動に関するパネルディスカッションの記録も、冊子として10月に発行した。

第3回SIC経営者研修講座では、「“閉じる”から“つなぐ”へ：データ戦略が変える競争優位の本質」と題し、SIC理事を中心としたパネル講演とディスカッションを行った。

定常活動としては、2024年度定時社員総会を本年3月14日に、また、第1回理事会を同日に開催し、活動計画、予算、役員の陣容等が承認され、2025年度の活動を本格化し、12月17日の第2回理事会において、締めくくりの総括を行った。

その他、SIC会員へのシステム化に関する啓蒙を図る「SICフォーラム」を今年度は7回開催し、AI、量子などの最先端技術の産業化に向けた取り組みや、持続可能性と価値創造のためのシステム基盤などについての講演を行った。

一方で、人材育成協議会の開催が年度当初に困難な状況にあったため、人材育成のための研修講座の計画の調整が整わず、開催が見送られた。計画を引継ぎ、次年度に複数の研修講座の開設を図ることとした。また、新しい分科会の設立が延び延びになってしまっている。実行委員会にて内容を詰めており、2026年度での立ち上げを計画している。以下に、それぞれの活動ごとに詳細を記す。

2. 実行委員会の活動

SIC実行委員会は、下記の日程で毎月1回、計12回を開催した(1～11月はオンラインで、12月は対面にて開催)。各回とも20人近い委員の参加により活発な議論を行った。

1月21日、2月18日、3月18日、4月22日、5月20日、6月24日、7月22日、8月26日、9月16日、10月14日、11月18日、12月16日

実行委員会では、分科会や戦略提言等の活動の状況について委員間で状況を共有し、その成果の生かし方について検討を行うとともに、SICフォーラム、研修講座、戦略提言シンポジウム等のイベントの企画についても継続的に議論を行った。特に、AI関連での新しい分科会の設立に向けて、現状の分析を交えて検討をした。また、中期と期末にはSIC事務局から予算の執行状況と執行予定を報告するとともに、活動計画の遂行に向けての議論を行った。実行委員会での議事については、開催日の翌月に発行のSICニュースレターにて、毎回の報告を掲載している。

3. 分科会の活動

「システムオブシステムズ分科会」は、人を要素として取り込んだ多階層のシステムのモデル化や将来像を題材に、SoSの考え方について議論を深め、2024年度末に報告書をまとめている。その活動成果報告会を、2025年2月27日に開催した。CPHS(Cyber Physical Human System)のアーキテクチャーの提唱と、EVドライバー行動変容システム、航空管制システムなどの事例をもとに、「人間中心のシステム設計」の重要性が強調された。

AIや量子技術などの先端システム技術に関連した、新しい分科会の設立を実行委員会等で模索した。これらは、2026年度の主要計画の一つとされた。

4. 人材育成協議会の活動

前記のように、人材育成のための研修講座の計画について、学術協議会特別講義の連続開催を企画したが、その実現の調整が整わず、今年度は開講が見送られた。計画を引継ぎ、2026年度に、その他の企画も含めて複数の研修講座の開設を図ることとした。

5. 戦略委員会の活動

2025年1月20日に委員会を開催し、SIC第3次中期計画策定、2025年度のSICの活動の基本方針策定について協議をした。

SICの第3次中期(2025年から3カ年)計画の柱として、社会を豊かにするシステム作りを目指すという提案があり、議論を重ね、中期計画案を策定した。この中期計画に沿って、2025年度のSICの活動を進めることとした。

一方、3年間にわたりほとんどの会員企業からの参画を得て、活動を展開してきたSIC戦略提言活動にて、(1)ヘルスケア、(2)エネルギー、(3)ロジスティクス、(4)金融、(5)科学技術、(6)防災・レジリエンスの、6つの分野を対象とした提言策定が出揃った。これを受け、日本にどのようなシステムを構築すべきか、日本のシステム構造をどのように作りあげていくべきかを、策定した戦略提言を公表し、それに基づいて議論をするシンポジウムの開催を決めた。

この戦略提言シンポジウムでは、6分野の戦略提言を軸に、その根底にある日本の産業構造システムの課題を全体から見直して行くとし、開催実行WGからのシンポジウムのタイトル、スローガンの提案と、2025年半ばに開催するという計画を了承した。

6. SICフォーラム

以下の7回の開催をおこなった。

- ・第1回(3月28日) 岡田俊輔氏(株式会社東芝)
【タイトル】「量子技術の産業化に向けた取り組み(日本の現状と可能性)」
【参加者数】78名
- ・第2回(4月16日) 古関 隆章氏(東京大学大学院)
【タイトル】「人口減少期の日本における持続可能な公共交通自動化技術」
【参加者数】44名
- ・第3回(6月4日) 鹿子木宏明氏(横河電機株式会社)
【タイトル】「AI ファースト・マニュファクチャリング」
【参加者数】71名
- ・第4回(7月3日) 橘高康朗氏(アメリス株式会社)
【タイトル】「日本のホワイトカラー産業へのAIエージェント導入の可能性と課題」
【参加者数】64名
- ・第5回(8月27日) 木谷昭博氏(マツダ株式会社)
【タイトル】「人とITの共創による価値創造」
【参加者数】43名
- ・第6回(11月27日) 高林 幹夫氏(三菱電機株式会社)
【タイトル】「顧客との共創によるイノベーションを実現するシステム基盤」
【参加者数】40名
- ・第7回(12月17日) 藤井 享氏(豊橋技術科学大学総合教育院)
【タイトル】「マーケティング5.0(デジタルネイティブ)の時代における製造DXの課題とは」
【参加者数】39名

いずれも、SICニュースレターにて講演要旨と共に開催報告を掲載している。

7. 主要イベントの開催

前述のように、2025年度は、主要なイベントとして、第2回SIC「システム人交流会」(6月21日、参加者26名)、「SICシンポジウム2025 日本をシステムから考える」(9月9日、参加者49名)、「第3回SIC経営者研修講座」(11月11日、参加者70名)を開催した。

システム人交流会については、SICニューズレターVol.7.7(2025年7月発行)に、SICシンポジウム2025については、同Vol.7.10(2025年10月発行)に、第3回SIC経営者研修講座については、同Vol.7.12(2025年12月発行)に、開催報告を掲載している。

8. 広報活動

「SICニューズレター」を毎月発行。各号では、SICの活動状況報告とともに、以下に示すように有識者の方々に貴重な論説や寄稿を執筆頂いている。

- ・69号:【SIC戦略提言要約シリーズⅣ】「ロジスティックス」サブワーキンググループ戦略提言
「ロジスティックス分野におけるシステム設計の提案」
- ・70号:【論説】「DX 時代の倫理と可能性～人間と技術が共創する未来のために～」
学習院大学名誉教授 遠藤 薫氏
- ・71号:2024年度SIC社員総会(2025年3月14日開催)報告
【SIC戦略提言要約シリーズⅤ】「金融」サブワーキンググループ戦略提言
「マイナンバー及びマイナンバー制度の利活用推進に向けた提言」
- ・72号:【技術紹介】「国際電気のデジタルソリューションに向けた取り組み」
株式会社国際電気 廣岡慎一郎氏
- ・73号:【寄稿】「ロボットとシステム」
大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 大須賀 公一 氏
- ・74号:【エッセイ】Unity 3.0:エネルギーと情報をつなぐ新文明論 ―システム思考とワット・ビット連携にもとづくイチゴ大福的宇宙仮説―
東京電力パワーグリッド株式会社 取締役副社長執行役員 岡本浩氏
- ・75号:【SIC戦略提言要約シリーズⅥ】「防災・レジリエンス」サブワーキンググループ戦略提言―
「『自助・共助・公助』を支える自律分散型の防災アーキテクチャー設計の提案」
- ・76号:【技術紹介】「原子力防災と避難シミュレーション」
株式会社構造計画研究所 米山 照彦氏、ほか
- ・77号:【寄稿】「グローバル先進工場との比較による日本の製造 DX の現状と課題」
豊橋技術科学大学総合教育院 教授 藤井 享氏
- ・78号:【寄稿】「人材多様化時代を生きる個人」
法政大学 キャリアデザイン学部 教授 武石 恵美子氏
- ・79号:【寄稿】「カーボンニュートラルに向けた大阪ガスのメタネーション技術開発～大阪・関西万博でのメタネーション実証を終えて～」
大阪ガス株式会社 横山 晃太氏

上記の論説・寄稿については、2025年度に執筆頂いた原稿をSICニューズレター「論説・寄稿」集(第6巻)としてまとめ、関係機関に配布した。

この他の広報活動として、主に、非会員の一般向けとしてメールマガジン「SIC便り」を今年度も継続して定期的に発行するとともに、SICの紹介パンフレットを作成して広く配布することで新たな会員獲得に努めた。また、SNSを通じた広報活動にも、昨年度から力を入れることにし、YouTubeとホームページに、SICフォーラム、研修講座等の講演の記録画像の掲載を始めている。その他、Facebook、XなどにもSIC主催イベントの案内などの掲載を行っている。

2025年度の決算報告等の詳細は議案書を参照ください

[SIC2025定時社員総会一議案書.pdf](#)

以上

③ 2026年度SIC活動計画

(一般社団法人システムイノベーションセンター2025年度定時社員総会「議案書」より抜粋)

SICは設立後7年を経過し、日本の産・官・学におけるシステム化を推進するための分析、知見、外部発信を蓄積してきている。2026年度は、3年ごとに制定しているSIC中期計画の第3次2年目にあたる。第3次中期計画では、「卓越システム」の構築の推進を通して人中心社会の豊かさを協創する「システム4.0」を提唱し、また、データ共有による「システム産業」の創出と活性化を、豊かな社会の協創に向けて促す活動の推進を目標に据えている。そこで、具体的な活動では、システム4.0を包含するより大きな社会目標であるSociety5.0の実現に向け、サイバーとフィジカルの融合化を推進することを念頭に置いて、外部の組織、団体とも連携した活動の計画を進める。

2025年度には、SIC戦略提言活動の成果の展開として、システムの「質」を重視した「社会にとっての良いシステム」を再定義しつつ、卓越システムの構築普及を目指す、SICシンポジウムの開催等を行った。2026年度も、この方針を継続して、さらに、実社会にて着地・実現させる活動を集中的に行っていくたい。そこでの次年度の大きな方向性としては、戦略提言を大きな流れにしていくことを柱に、提言に賛同する仲間作りをして、より実効性のある成果を生み出していきたい。

また、同時に、これまでのSICフォーラム開催、ニュースレターの発刊、人材育成のための各種講習会の開催などの活動を活性化すると同時に、SICフォーラム等の継続的に実施する事業に加え、現在以上にSICの存在感を増すような外部発信を強化したい。

これらの活動を通して、「ウラノス・エコシステム」の推進への関与を始めとして、SICの活動の奥行きを深め、その目標の社会実現を具体的に図っていく道を探りたい。

具体的には以下のような事業を想定して、上記の目標の実現に向けて、要点を絞って詳細を検討する。まず、活動計画を7つの事業グループ化して実現性を整理する。

活動計画の具体化(7事業グループ)

1. 戦略提言の外部連携化による、システム4.0(人中心システム)の普及
2. データ共有基盤の整備と「システム産業」創出(OEPCとの連携)
3. 分科会の立ち上げ(AI等)
4. システム人材育成講座
5. SICフォーラム継続開催
6. 主要イベントの開催
7. 広報強化(NL・HP・SNS)

活動計画の具体化は次表のようにまとめられる。

事業名	目的	活動の内容	期限
戦略提言の外部連携化	提言を共同プロジェクト化する	戦略提言の表題を冠した外部連携協定を、RRI、DADC等と締結し、活動を開始する	年度前半
データ共有基盤の整備と「システム産業」創出(OEPCとの連携)	SIC流「データ共有基盤」の構築	第3回経営者研修講座の各講演での提言の整理と具体化	年度前半
分科会立ち上げ(AI等)	システム技術テーマでの実効的議論の場を築く	(AI関連での)分科会設置・初回会合実施	年度前半
システム人材育成講座の開催	システムアーキテクト育成	SICで積み上げてきた教材、ノウハウ、学会員の動員等を活用した、研修コース開講・受講者確保	年度内
SICフォーラムの継続開催	会員向け情報提供と交流促進	年間6~8回開催(テーマ、講師の選定方法を検討)	年間
主要イベントの開催	シンポジウム、交流会等の開催による、SICの存在価値の確立	少なくとも、ビッグイベントを1回開催(エネルギー、ロジスティクス政策提言を、実行段階に落とし込むシンポジウム)	年度内
広報強化(NL・HP・SNS)と会員拡大	会員にとっての参加価値の向上、外部認知と会員増加	ニュースレター定期発行・HP更新、システム技術関連の資料、冊子などの発行、配布	継続

以下に、活動計画の具体化のための要点を述べる。

1. 活動具体化の目的

- システム4.0の普及:人中心の豊かな社会を目指すシステム設計思想の普及。
- 戦略提言の実装:6分野の提言を外部パートナーと連携して社会実装へ移行。
- 外部発信と存在感向上:イベント・ニュースレター・研修等で認知と影響力を強化。
- システム人材の育成:システムアーキテクト等の育成プログラム整備。
- 分科会設置:AI、量子技術、サーキュラーエコノミー等の分科会立ち上げ。

2. SICの主要施策としての事業の位置づけ

1. 第3次中期計画の具体的な前進を図る

システム化は何のためかを問い、人を中心とした社会の豊かさを拡張する「システム 4.0」の普及を図り、各分野に普及・推進する。すなわち、システム4.0は、現在提唱されているCPHS(Cyber Physical Human System)と相通じる等、その性格を具体化して、普及・推進を提案する。

2. SIC戦略提言の展開

6分野にわたるSIC戦略提言活動の成果について、それぞれの分野ごとに外部パートナーとの連携を築くことで、その社会実装の進むことを図っていく。

SIC単独では、それほど大きな組織ではないので、これを社会の流れにしていくためには、同調者を増やしていく必要がある。戦略提言を策定したことで、単にシステム化を提唱する以上の具体的なシステム化の方向性を得ていると考え、仲間作りを説教的に進めていく。

3. 友好団体・機関との協業・共同プロジェクトの推進

上記2. の実現を軸として、OEPCとの連携、DADC、RRIとの3極での協働体制を構築する。一方で、その他の外部パートナーとの連携協定の拡大を図る。

4. 分科会の立ち上げ計画を推進する

AI、量子技術などの最先端情報技術が、システム構築の要件そのものを代えつつあることを、SICフォーラム、実行委員会等において採り上げ、AIが社会をどう変えていくか、量子技術はどう応用できるか等々その動向を議論してきている。これらの主題を含め、AIエージェント、サーキュラーエコノミー、その他のシステム応用に関する分科会の立ち上げを計画する。

ただし、新たな分科会の立ち上げについては、これまではニーズ指向(会員企業が抱える課題ベース)で分科会を企画してきたが、会員が抱える課題の多くは競争領域の課題となりがちで、SICの検討テーマになりづらかった。次年度は、シーズ指向でテーマを策定する方向で考えたい。

5. 人財育成のための研修講座の開催

SICの主要な柱の一つであるシステム人材の育成について、研修講座などの充実を図る。特に、システムアーキテクト人材の育成を目指す研修講座の立ち上げを検討する。

6. SICフォーラムの継続的な開催

SIC会員への最新技術動向の紹介・普及のため、年間に6~8回程度のSICフォーラムの開催を計画する。

7. 主要SICイベント(経営者研修講座、SICシンポジウム、システム人交流会等)として、

SIC会員が一堂に会し、SICの活動の存在感を実感しつつ、非会員にも広く開放する主要なイベントを立案し、計画する。

8. ニュースレター、ホームページ等を活用した広報の充実

魅力あるニュースレターの継続的な発行、時機を得たホームページの編集、その他のメディアを利用したの外部発信を含む広報活動を、継続的に充実させる。

2026年度の予算書等の詳細は議案書を参照ください

[SIC2025定時社員総会一議案書.pdf](#)

以上

④ SIC第3期(2026)システム科学概論連続講座「システム科学のための情報と数理」 開催案内

現代の複雑なシステムを理解するための「新たな知の基盤」が求められています
“複雑性を紐解き、未来のシステムをデザインする全6回の知的探求”

開催期間：2026年6月12日～11月20日（全6回 対面とオンライン講義を併用）

第1回の対面開催場所：新宿住友ビル47階 新宿住友スカイルーム

第6回も同場所を予定

受講料：● SIC正会員・準会員所属の方

全6回の講義を通して受講の場合、受講料 30,000 円/人

講義単位で受講の場合、1 講義の受講料 6,000 円/人

● 非会員の方

全6回の講義を通して受講の場合、受講料 40,000 円/人

講義単位で受講の場合、1 講義の受講料 8,000 円/人

（支払いは請求書払い）

詳細および申し込みは下記の URL を参照ください

<https://sysic.org/news/4993.html>

本講座の概要と開講スケジュール

システム科学の神髄は、多様な要素がいかに繋がり、全体として機能するのかを解き明かすことにあります。本講座では、情報科学と数理科学を「強力なレンズ」として用い、大規模システムの基礎概念から、最新のAI、圏論、人間拡張、そして未来のサイバー・フィジカルまでを体系的に網羅します。

システム開発を担う技術者、システムの実装・管理を担う実務者や、システムへの理解を求められている経営分野の方々を対象に、単なる知識の習得ではなく、複雑化する社会と技術を俯瞰し、自らシステムをデザインするための「知のOS」をアップデートする連続講座です。

「システム科学のための情報と数理」全6回講義 開講スケジュール

第1回	6月12日(金) 15:00-18:00	対面 オンライン	システムをつなぐ情報と通信の数理基盤	出口光一郎 (SIC、東北大学)
第2回	7月3日(金) 15:00-18:00	オンライン	大規模動的システムと数理モデル	石井秀明 (東京大学)
第3回	7月24日(金) 15:00-18:00	オンライン	AIとシステム科学の接点 —マルチモーダル知能と実世界システム—	岡谷貴之 (東北大学, 理化学研究所)
第4回	9月11日(金) 15:00-18:00	オンライン	関係性の数理科学(圏論入門:システムは圏論でできている)	本多 敏 (慶応大学, 日越大学)
第5回	10月16日(金) 15:00-18:00	オンライン	Fusing Interaction —身体拡張から共体験へ向かう『境界のない世界』—	嵯峨 智 (熊本大学)
第6回	11月20日(金) 15:00-18:00	対面(終了後 交流会)	情報と数理を基盤とする統合的システムデザインと未来社会	藤田政之 (金沢工大, 東京工業大学)

第1回 システムをつなぐ情報と通信の数理基盤

6月12日
15:00-18:00

講義形式:
対面講義とオンラインを併用

講師:
出口光一郎
(東北大学名誉教授)



講義概要

- ・システム科学と情報科学・数理科学の接点を明確にし、情報の発生から通信の理論、信号・パターンのデジタル情報処理まで、システムを構築するための数理的根幹を再定義する。
- ・システムを「情報」のフローとして捉え、システム要素をつなぐ情報と通信の基本原則の理解を進める。
- ・システム科学の基盤としての、情報量・エントロピー・通信の基本原則の習得を目指す。

講師紹介:

1976年、東京大学大学院修了。東京大学講師、山形大学助教授、東京大学助教授を経て、2002年より東北大学情報科学研究科教授。この間、米国ワシントン大学助教授、東京大学客員教授等を併任。2015年、定年退職。東北大学未来科学技術共同研究シニアセンターリサーチフェローを経て、現在、システムイノベーションセンター(SIC)事務局長。

第2回 大規模動的システムと数理モデル

7月3日
15:00-18:00

講義形式:
オンライン講義

講師:
石井秀明
(東京大学教授)



講義概要

- ・ネットワーク化されたシステムの制御に焦点を当てる。
- ・大規模システムの数理モデル化の方法論を詳説する。
- ・情報・通信と制御論の融合領域および制御システムのサイバーセキュリティについて解説する。
- ・大規模複雑システムのダイナミクスを解析・制御するためのモデリング技術の習得を目指す。

講師紹介:

1998年 京都大学 大学院工学研究科 修士課程 修了, 2002年 トロント大学 電気コンピュータ工学科 Ph.D. 課程 修了, 2001年 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校 研究員, 2004年 東京大学 大学院助手, 2007年 東京工業大学 情報理工学系 准教授, 2020年 同 教授, 2024年 東京大学 大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻 教授, 現在に至る。計測自動制御学会 制御部門研究賞(木村賞), IEEE Control Systems Magazine 優秀論文賞等を受賞。IEEE および IFAC (国際自動制御連盟)の Fellow。

第3回 AIとシステム科学の接点 —マルチモーダル知能と実世界システム—

7月24日
15:00-18:00

講義形式:
オンライン講義

講師:
岡谷貴之
(東北大学教授)



講義概要

- ・視覚を中心に世界を理解するマルチモーダルAIの研究動向と、その設計思想を紹介する。
- ・AI研究を実世界・社会課題の解決へと接続する際の課題と可能性を考察する。
- ・実世界で機能する知能の実現に向けて、ロボティクスや車載応用などの事例を通じて議論する。

講師紹介:

東北大学大学院情報科学研究科 教授 / 理化学研究所 革新知能統合研究センター(RIKEN AIP) チームディレクター。

コンピュータビジョンおよびマルチモーダルAIを専門とし、視覚を中心とした実世界理解の研究に従事。物体認識、三次元理解、センサ統合、ロボティクス応用など幅広いテーマに取り組み、近年は基盤モデルとPhysical AIの接続に関心を持つ。国内外の主要国際会議・学術誌で多数の論文を発表し、学術活動と実社会応用の両面からAI研究を推進している。

第4回

関係性の数理科学

(圏論入門：システムは圏論でできている)

9月11日
15:00-18:00

講義形式：
オンライン講義

講師：
本多 敏
(慶応大名誉教授)



講義概要

- ・システム思考のOSを圏論でアップデートする
- ・システムを関係から観る：圏論の抽象性と普遍性を観る
- ・「圏」の定義：モノとコトの構造を記述する
- ・構造の関係性：関手・自然変換・随伴の役割を理解する
- ・MBSEと圏論：Wiring/String Diagram, Lens, Sheaf Theory

講師紹介：

1975年 東京大学工学部計数工学科卒業、同学科助手、講師を経て、1986年 熊本大学工学部生産機械工学科助教授、1990年 慶應義塾大学理工学部計測工学科助教授、1992年 ドイツアーヘン工科大学客員研究員、1998年 慶應義塾大学理工学部物理情報工学科教授。
2017年4月～現在 慶應義塾大学名誉教授、慶應義塾大学大学院SDM研究所上席研究員。
2025年8月～現在 JICA 日越大学支援プロジェクト 専門家/講師(コンピュータサイエンス&エンジニアリング分野)

第5回

Fusing Interaction — 身体拡張から共体験 へ向かう『境界のない世界』 —

10月16日
15:00-18:00

講義形式：
オンライン講義

講師：
嵯峨 智
(熊本大学准教授)



講義概要

- ・VR/AR技術や人間拡張工学を核とした、身体とシステムが融合し境界が溶け合う新しいヒューマンインタフェース
- ・物理・生理・知覚の多角的な手法を用いた、触覚ディスプレイ、力覚提示、および感覚変容技術による「実感」の創出、
- ・熟練技能の継承を実現する教示技術と、遠隔地間での感覚共有により個人の体験を「共体験」へと進化させるデザイン、など。

講師紹介：

2007年3月 東京大学情報理工学系研究科システム情報学専攻博士後期課程 修了。2007年4月-2008年3月 東北大学工学研究科バイオロボティクス専攻 助教。2008年4月-2013年4月 東北大学情報科学研究科システム情報学専攻助教。2012年4月-2012年7月 マサチューセッツ工科大学客員助教兼任。2013年5月-2017年9月 筑波大学システム情報系情報工学科准教授。2017年10月-熊本大学大学院先端科学研究部准教授。現在に至る。
力覚教示、触覚センサ、触覚ディスプレイをはじめとした、人間中心の双方向型触覚インタフェースに関する研究に従事。博士(情報理工学)。

第6回

情報と数理を基盤とする

統合的システムデザインと未来社会

11月20日
15:00-18:00

講義形式：
対面講義(終了後懇親会)

講師：
藤田政之
(東京工業大学名誉教授
金沢工業大学教授)



講義概要

システムの語源は「共に立てる(systema)」にあり、その思想は未来社会の構築に欠かすことができない。Society 5.0の中核をなすサイバーフィジカルシステム(CPS)はまさにサイバー空間とフィジカル空間を「共に立てる」ことを目指すものであり、1948年のウィーナーによるサイバネティクスの提唱以来、長足の進歩を遂げてきた。

一方で、1956年のダートマス会議においてマッカーシーが提案したAI(Artificial Intelligence)は、近年のフィジカルAI(Physical Intelligence)の台頭により、物理世界と高度に相互作用する劇的な進化を見せている。

本講義では、人間という要素をシステムの一部として内包する未来社会を見据え、CPSに人間(Human)を統合した「サイバー・フィジカル・ヒューマン・システム(CPHS)」について、新しいフィジカルAIを用いた統合的システムデザインの視点から論ずる。

講師紹介：

1985年早稲田大学大学院博士後期課程退学。1985年金沢大学助手、同講師、助教授、JAIST助教授を経て、1999年金沢大学教授。1994～1995年ミュンヘン工科大学(文部省在外研究員)。2005年東京工業大学教授。2012～2019年 JST CREST研究総括。2020年東京工業大学教授。2024年金沢工業大学教授。現在に至る。

SICE(計測自動制御学会) 会長、横幹連合副会長、IEEE CSS(Control Systems Society) Vice Presidentなど歴任、IEEE CSS Distinguished Member Award、IEEE TCST Outstanding Paper Award、SICE論文賞/教育貢献賞、東京大学工学部 Best Teaching Awardなど受賞。IEEEライフフェロー、SICE名誉会員/フェロー、工学博士。

Ⅱ 会員活動

① 2026年度第2回SICフォーラム開催案内(会員限定)

【日時】 2026年4月8日(水) 15:00～16:15

【開催形式】 MS-Teams によるオンライン

【申込方法】 下記の参加申込ページよりお願いします

<https://sysic-org.sakura.ne.jp/SICregistration.html>

【タイトル】「アジャイル開発とスクラム ～ビジネス事例と知識創造理論の接点～」

【講師】 平鍋健児氏 永和システムマネジメント代表取締役社長

【講演概要】

現在、アジャイルはソフトウェア開発の枠を超え、製品開発や組織改革にまで浸透しています。本講演では、DX時代におけるアジャイルの背景を解説し、スクラムを例にその価値や実践のポイントを具体的なビジネス事例とともにお伝えします。

また、故野中郁次郎先生の知識創造理論(SECIモデル)をご紹介します、イノベーションとアジャイルの関連性、さらにはAIが進展する現代において、人間に残された暗黙知の可能性についても触れたいと思います。

【講師プロフィール】

平鍋健児(ひらなべけんじ)氏
永和システムマネジメント代表取締役社長、
株式会社チェンジビジョン CTO、Scrum Inc. Japan 取締役。
2000年から、国内外でアジャイル開発の普及に努めるとともに、モデリングツール astah* の開発、2019年には、Scrum Inc. Japan 設立。
現在は、福井の永和システムマネジメント内 Agile Studio にてアジャイル普及活動を推進中。
ソフトウェアづくりをより協調的に、創造的に、そしてなにより、楽しく変えたいと考えている。
2009年から17年間開催している、アジャイルジャパン初代実行委員長。



② 2026年度第3回実行委員会開催報告

【日時】 2026年3月24日(火) 15:00～17:00
【開催形式】 M-Tems によるオンライン開催
【出席者数】 実行委員10名、監事2名、事務局1名、合計13名

司会 松本隆明実行委員長

議題

1. 報告事項

- | | |
|--|-----------|
| 1. 1 SICフォーラム2026年度第2回開催案内
日時:4月8日(木) 15:00～16:15
【タイトル】「アジャイル開発とスクラム～ビジネス事例と知識創造理論の接点～」
【講師】 平鍋健児氏 永和システムマネジメント代表取締役社長 | 久保忠件事務局次長 |
| 1. 2 SICフォーラム2026年度第3回(5月14日)と今後のフォーラム開催予定 | 同上 |
| 1. 3 SIC2025年度定時社員総会、第1回理事会開催報告 | 出口光一郎事務局長 |
| 1. 4 SIC第3期(2026)システム科学概論連続講座開催案内
「システム科学のための情報と数理」全6回(2026年6月12日～11月20日) | 同上 |

2. 協議事項 (フリー討議形式)

- | | |
|---|-----------|
| 2. 1 2026年度のSIC活動計画の具体化
外部連携について(特に RRI と OEPG との連携) | 松本隆明実行委員長 |
| 2. 2 戦略提言「ロジスティクス」の深耕について
分科会立ち上げが決定 | 藤野直明実行委員 |
| 2. 3 AI 分科会(仮称)の進め方について | 松本隆明実行委員長 |

3. 広報活動

- | | |
|---|----------|
| 3. 1 SICニュースレター4月号発行予定
2026年4月号巻頭記事
「SIC2025年度定時社員総会報告」 | 中野一夫実行委員 |
|---|----------|

次回、次々回の実行委員会開催予定(オンライン開催)

2026年度第4回実行委員会	4月28日(火) 15:00～17:00 (4月21日(火)から変更)
2026年度第5回実行委員会	5月19日(火) 15:00～17:00

Ⅲ 会員企業一覧

正会員

SCSK株式会社

株式会社NTTドコモ

株式会社国際電気

株式会社東芝

株式会社野村総合研究所

株式会社日立システムズ

東京電力パワーグリッド株式会社

マツダ株式会社

ロジスティード株式会社

NTTドコモソリューションズ株式会社

株式会社構造計画研究所

株式会社JSOL

株式会社ニューチャーネットワークス

株式会社日立産業制御ソリューションズ

株式会社日立製作所 研究開発グループ

システムイノベーションセンター

日鉄ソリューションズ株式会社

横河電機株式会社

準会員

アメリス株式会社(準2)

東京ガス株式会社(準2)

電腦バンク株式会社(準1)

NEXT WIND 合同会社(準1)

(準1):インキュベーション会員、(準2):人財育成限定会員
(2026年4月1日現在:五十音順)

©SIC 2026.4

発行者: 一般社団法人システムイノベーションセンター(SIC)
代表理事・センター長 浦川伸一
編集者: SIC実行委員 中野一夫 (構造計画研究所 HD)
事務局 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-12-7 ストック新宿 B-19 号
URL: <https://sysic.org> E-mail: office@sysic.org Tel.Fax: 03-5381-3567